



11月に入り、だんだんと寒くなってきましたね。風邪をひかないように、体調には気を付けていきましょう！！



がんばりたい子どもたち

「おはようの会」等で元気にお返事をしてくれる子どもたちもいれば、恥ずかしそうに顔を隠してしまったり、うつむいてしまう子どもたちも多いのです。友だちが「じょうずにお返事できたね」と先生にほめられると、「あんなにじょうずにお返事できるだろうか」と思うのでしょうか。そう思ったら最後、自分の番のときには、返事できなくなってしまいます。

「大きいー小さい」などの対比的認識が獲得されてくると、それは友達と自分の力関係を感じてしまう力にもなってしまいます。さらに、おとなによって見つめられている自分分かり、ついつい引っ込み思案になってしまうのです。これも「できるーできない」に過敏になりはじめている「二分的評価」の表れでしょう。

一人ひとりの子どもたちが「おにいちゃんになりたい」「おねえちゃんになりたい」と願い、しかし、自信がもちきれないなかで、「本当になれるのだろうか」と葛藤しているのです。そんなとき、しっかりすること、がんばることを押しつけられたりしたら、「いや」「おかあちゃんのアホ」などということばの限りを尽くして反抗しないではいられない心の段階なのでしょう。いいかえるなら、「おにいちゃん」「おねえちゃん」としての自分を切実に求めているのです。

より良い自分を選びたい子どもたち

たいせつなものを取られてもそこですぐ噛みついたりはいしません。手に持っているブロックを投げたけたくとも、まずそれを我慢します。噛みつきたいのだけれども、それを我慢します。その一瞬の我慢の時に、おとなが「とられちゃったの、くやしかったのに、よくがんばったね、お話しいてあげるからここへおいで」と言い、からだ全体で受けとめてあげると、くやしい表情が少しずつとれてきます。

奪い取ってしまった友だちも、「悪いことしたなあ」という気持ちがあるからでしょうか、相手の視線より低いところから、先ほど取ってしまったおもちゃを持ってやってきます。そしてそれをちゃんとさし出して、「ごめんね、ありがとう」と言うかわりに、砂の入ったコップなどをさし出して、仲直りのプレゼントをします。「悪い自分」を選び取るのではなく、「賢くなった自分」を選びとろうとするのです。小さい自分ではない、大きい自分をつくりあげることで、「終わりよし」としたい願いが満ち溢れています。

かりにけんか合っている姿があったとしても、心の中の前向きな葛藤を言葉にして「ほんとうは、がまんしたかったんだよね」「ほんとうはごめんねと言いたかったんだよね」などと認めてもらうと子どもは救われた気持ちになるでしょう。そして、もう一度、心のなかのより良い自分を選びとりたい願いに立ち戻ることができるのです。

参考文献：『発達の子・上』 著：白石正久

次回のめだか教室は…

めだか教室①…12月10日(火) 9:20~11:15

→ クリスマスせいさく をします。

めだか教室②…12月24日(火) 9:20~11:15

→ クリスマスせいさく をします

◎持ちもの：水筒・シューズ

※製作をするので材料費100円を持って来てください。

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

『参加される皆様へ』

- お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- 参加費は無料です（おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度、連絡します。
- 水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
- きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までにご相談ください
- トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください

